環境保全報告書

①2025年度の重点取組目標・計画の実施状況

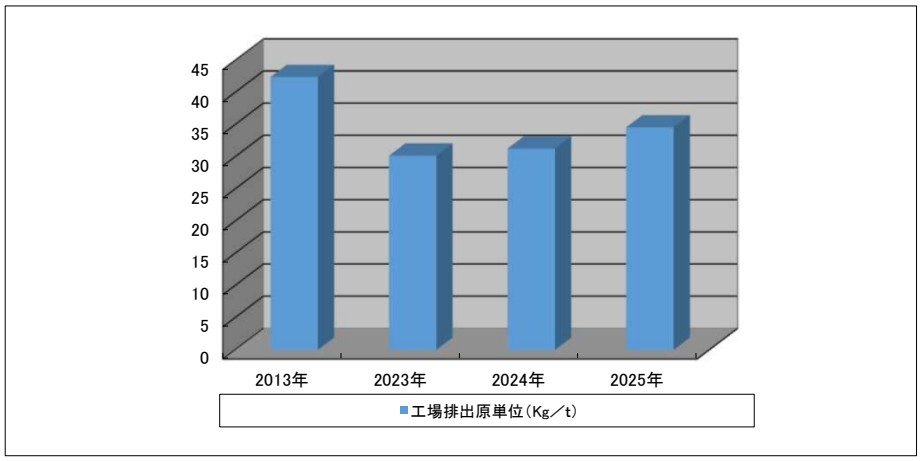
ア・地球温暖化対策【温室効果ガスの抑制】

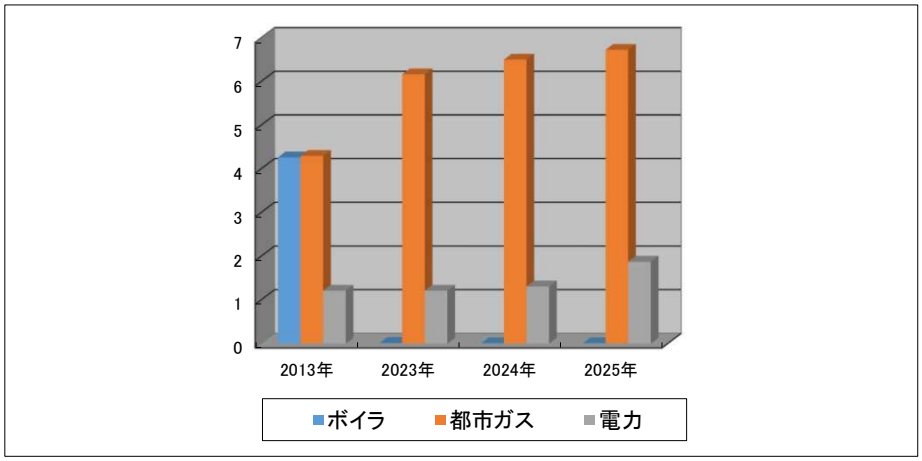
CO2においては、燃料、電力の省エネルギー、燃料代替（CO2発生量の少ない燃料使用）などを通じて排出量の削減、排出原単位の削減に努めます。
弊社は『CO2の排出量を2030年までに2013年比で26%削減に挑戦する』を目標に会社全体で取り組み2025年度の実績では、下表に示すとおりCO2排出量で基準年度2013年度よりCO2で11.86%の削減をしていますが、2024年度と比較しますと製造量は需要環境の変化はあるものの、前年度と同水準で推移しております。　エネルギー使用量も同水準を維持、しかしながら電気事業者のCO2排出計数が大幅な上昇に伴い弊社のCO2排出量が10%増加するに至りました。
現在の社会情勢を鑑みてある程度は仕方のない事でありますが、しかしながら弊社としては最大限の省エネルギー努力は継続実施してまいります。
弊社では2018年に自社の原料油から食用油への各製造工程で発生する動植物の廃油を独自技術をもって全廃油を工場の主力蒸気ボイラー用への燃料として活用しています、それにより2017年以前までは通年で重油を1,200KL程度消費していましたが、2018年の大規模改修後以降からは重油の使用量は年間で4KL程度までに削減をすることが出来ました。
またコージェネレーションを含めた複数の熱源発生設備を効率良く運用することで、エネルギー負荷の変動に対しても効率的に対応を可能にしております。
エネマネの導入によりエネルギーの「見える化」で蒸気の効率的な使用にも貢献しています。

会社全体の取り組みによる目標達成への成果が下の表に表しております

工場CO2排出状況

項目		（基準年）2013年	2023年	2024年	2025年
製造量	（千t）	230	245	250	249
工場CO2排出量	ボイラー（千t）	4.263	0.016	0.010	0.010
	都市ガス（千t）	4.297	6.164	6.500	6.726
	電力購入（千t）	1.210	1.212	1.309	1.875
	合　　計（千t）	9.770	7.392	7.819	8.611
工場排出原単位（kg/t）		42.4	30.2	31.3	34.6





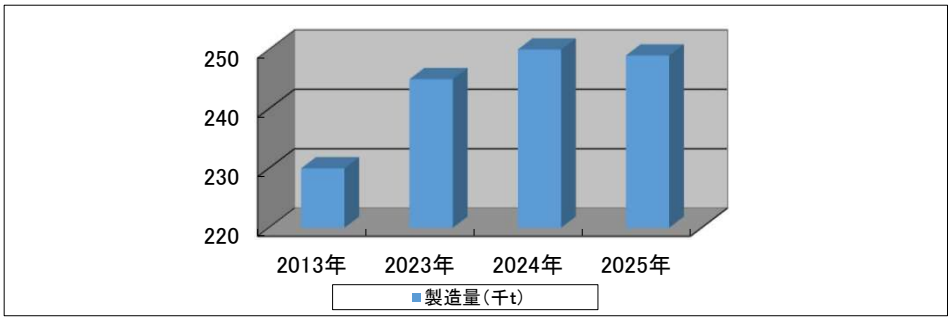
工場CO2排出量（千ｔ）

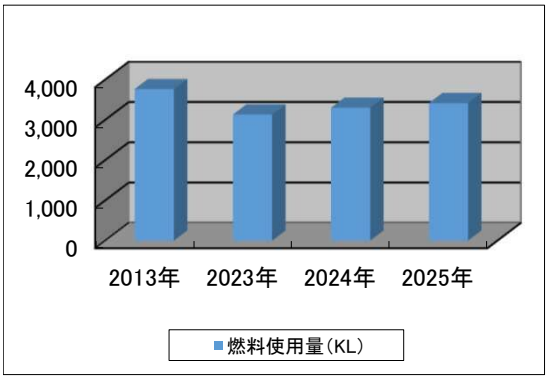
イ・省エネルギーの推進

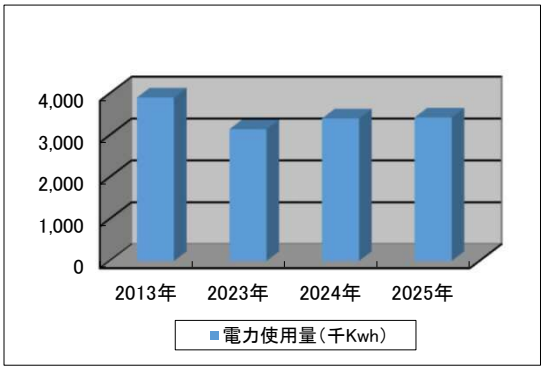
エネルギーの総量につきましては2024年度に対して2025年度は燃料総量で3.4%微増、電力総量では7.6%の増加となりました。
会社全体の取り組みとしまして毎月全管理職でエネルギー使用量の報告会を実施して情報共有を図り、さらに各課にてコストダウン活動を継続して実施して省エネルギー対策に努めております。
会社全体といたしまして社員の方達が改善提案活動に積極的に参加をしています、それは出来る限りエネルギーを無駄にせず環境負荷の少ない経済活動を目標としています。
今後も植田製油株式会社は省エネへの挑戦を続けて持続可能な社会に向けて貢献していきます。

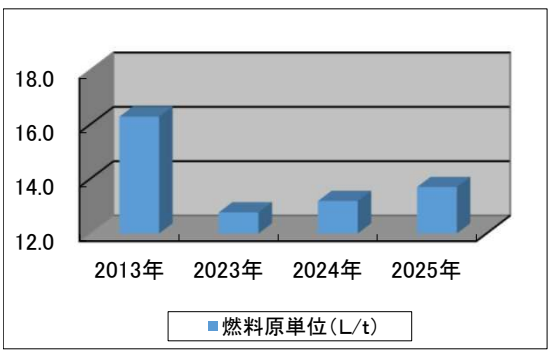
エネルギー使用量・原単位

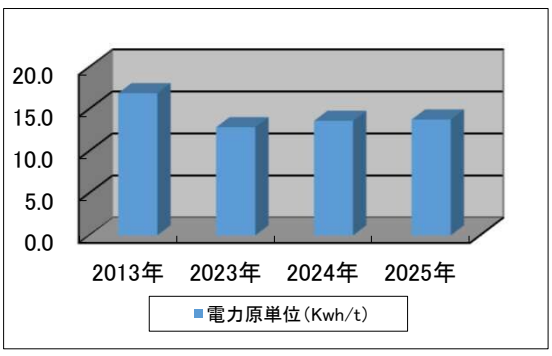
項目		(基準年)2013年	2023年	2024年	2025年
製造量	(千t)	230	245	250	249
燃　料	総量(KL)	3,764	3,130	3,299	3,414
	原単位(L/t)	16.3	12.8	13.2	13.7
電　力	総量(千ｋWh)	3,904	3,148	3,402	3,428
	原単位(kWh/t)	16.9	12.8	13.6	13.8











②　公害防止対策に係る報告

ア・目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策

目標項目		目標達成状況	目標達成のために講じた措置・対策
大気汚染防止対策	ばい煙(硫黄酸化物、ばいじん窒素酸化物等)、有害大気汚染物質の年間総排出量の把握と排出量削減	硫黄酸化物、ばいじん窒素酸化物の年間排出量を把握有害大気汚染物質は把握できず	良質燃料に転換
	ばい煙の排出規制の遵守	排出にかかる目標値を全ての測定結果が満たしていた。(測定結果は別途報告)	排ガス処理施設の適正な維持管理に努めるとともに、[排出ガス中のばい煙濃度等測定計画」により、目標値の遵守状況を確認した。
水質汚濁防止対策	(公共下水道に排出する場合)		
	排出水の水質管理及び汚濁負荷の総量管理	排出にかかる目標値を全ての測定結果が満たしていた。(測定結果は別途報告)	排水処理施設の適正な維持管理に努めるとともに、「排出水の汚濁状態測定計画」及び「排出水の汚濁負荷量の測定計画」に基づき目標値の遵守状況を確認した。
	富栄養化防止対策の推進(窒素・燐の総量管理)	窒素・燐の排出目標値を測定結果が満たしていた(測定結果は別途報告)	
土壌汚染防止対策	(特定設備を使用している場合)		
	土壌汚染の未然防止	特定設備からの土壌汚染は認められかった	特定設備からの地下浸透により、土壌汚染を生じることのないよう施設の維持管理を行った。

イ・2018年度　排出水の汚濁状態測定結果

排水口名　：　総合排水処理設備最終排水口								
項目			管　理 目標値	測定値 (pHのみ 最小～最大)	測定値 平均	全測定 回　数	目標値を超過した測定回数	法令基準達成判定
法令排水基準設定項　目 (生活環境項　目)	11	水素イオン濃度(pH)	5～9	6.5～7.8	連続	連続	0	○
	12	生物化学的酸素要求量（BOD)	2,000ppm	29.9	7.6	24	0	○
	13	浮遊物質量（SS)	2,000ppm	109.4	21.6	24	0	○
	17	窒素含有量	1,200mg/L	23.0	4.3	12	0	○
	18	燐素含有量	160mg/L	13.0	1.9	12	0	○

単位はｐＨを除き、ｍｇ／ℓ　　ＮＤ：定量下限値以下
○　達成　　×　未達成

③　地球温暖化対策に係る報告

ア．2025年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	使用量等	単位	単位発熱量（MJ）	排出係数 kg-CO2/MJ	排出量 kg－CO2	温暖化係数 CO2
燃料の使用	A重油	4,000	ℓ	39.1	0.0693	10,839	1
	都市ガス	2,936,741	Nm3	45	0.0509	6,726,605	1
電気事業者から供給された電気の使用	エネット	3,428,111	kWh		0.547	1,875,177	1
熱供給事業者から供給された　熱の利			MJ		0.067		1
合計						8,612,620	

イ．当該年度の計画達成状況

温室効果ガス	削減目標		排出量		削減率（%）	
	今年度 (2025年度)	2030年度	基準年度 (2013年度)	今年度 (2025年度)	今年度 (2025年度)	2030年度
二酸化炭素	7,733,239	7,230,740	9,771,283	8,612,620	11.86	26.00

ウ・目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

項目	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	事業所等でのエネルギー使用量の削減	全従業員からの改善活動	全従業員の意識変革	1人1件/年	採用７７件
		蒸気使用量を削減する	配管加温で使用する蒸気の入・切動作を手動から自動化を図り蒸気量を大いに削減する省エネ対策	重点対策	自動加温トレースシステムによる蒸気量の削減効果大
			azbilのエネマネによる蒸気使用量に応じた圧力制御で省エネ対策	蒸気使用量2%	工場全域で使用する蒸気の流れを見える化してＰＣで自動流量制御を行い、使わない蒸気を無くした
		電気節電	電動機の保守管理 電動機へ予防保全を促進急な電気トラブルを未然に防ぎ運転ロスを無くす	重点対策	0.4KW×2台、1.5KW×1台 5.5KW×1台をIE3電動機へ更新する
			工場計装制御省エネ	重点対策	自動制御で使われる空圧式自動弁の内、老朽化してエアー漏れをしているバルブ18台取替済
			環境対策の取り組みとしてクールビズとウォームビズをほぼ年間実施中	重点対策	節電効果に寄与 従業員の環境意識を高める
			照明の点灯方式見直し	省エネ重視	エントランス、廊下、階段室、各トイレの照明を人感センサへ改修済、必要なのない点灯時間を削減する
			休み時間等に消灯	徹底	実施率90%
			冷暖房の適正化	夏季:26～28℃ 冬季:22～20℃	概ね実施
2	環境負荷の少ない燃料の選択	良質燃料への転換	都市ガス貫流ボイラーを４基最高率にて運転	都市ガス	廃油専焼ボイラーをベースとして負荷対応のボイラーとして運転
			炉筒煙缶ボイラー２基リニューアル工事済	廃油専焼	廃油（動植物油）専用として運転し都市ガスの使用量を削減する

④　公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告

2025年度の環境保全活動に係る具体的実施内容

項目	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	事業所等での節水	用水	生産歩留まり向上 凍結防止弁設置	可能な限り	上水道は前年より1.7%削減 工業用水は前年より0.1%削減
2	事業所等での廃棄物の適正処理・減量	空缶、空瓶、紙等の分別回収	紙類の専用 収集ボックスの設置	全職場に設置	実施率100%
		コピー紙の使用削減	再資源化への回収徹底	比率40%以上	2025年度は39%
			ﾐｽｺﾋﾟｰ紙の再利用あり	徹底	概ね実施
		廃棄物発生量の削減	電子化の推進 社内LANの活用	紙使用量を5%削減	前年度からコピー紙の購入量1.8%増加
		廃棄物発生量の削減	納入業者への 梱包削減依頼	全納入業者に依頼	廃棄物発生量の削減
3	事業所等での再生製品等の使用	グリーン購入の実施	文房具	可能な限り	筆記用具及び用紙類全種
			機械器具・備品	可能な限り	実施
		プリンタートナー カートリッジのリサイクル	ほぼ全ての機種	100%	実施率100%
		掃除用ウエス再生利用	－	可能な限り	実施
4	環境負荷の少ない資源材料,燃料の選択	製造工程で発生する動植物の廃油全量を自社のボイラで燃料とすることでCO2や産廃発生を大きく削減する	廃油専用ボイラー2台活用	100%	自社の廃油を100%再利用 産廃処分無し
		ﾌｫｰｸﾘﾌﾄの転換	内燃機関から ﾊﾞｯﾃﾘｰ式に転換	可能な限り	対象機種無し
5	自動車対策	アイドリングストップの推進	社内ルール確立、取引先全社に案内書を送付	全車両対象	実施率100% （冷凍車は省く）
		低公害・省エネルギーな自動車への転換	―	可能な限り	社有車2台をハイブリッド車に更新した
7	環境に配慮した施設整　備	緑地の整備	工場緑化	可能な限り	適正な緑地を維持管理継続中
		光害の抑制	夜間照明の減量化	消灯の徹底	概ね実施
8	従業員教育	社内掲示板での啓発	－	eValue	概ね実施
9	地域社会への参画	事業所周辺の清掃活動	各個人への 環境意識向上	年6回実施	神戸市３工区クリーン作戦に全て参加人数計82名
10	品質管理ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｼｽﾃﾑの充実	FSSC22000認証	審査	認証継続	FSSC22000 認証継続維持